

ユーゼル錠 25mg

【この薬は？】

販売名	ユーゼル錠 25mg UZEL Tablet 25mg
一般名	ホリナートカルシウム Calcium Folate
含有量 (1 錠中)	27mg (ホリナートとして 25mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「[医薬品に関する情報](https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html)」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、還元型葉酸製剤です。
- ・この薬は、テガフル・ウラシル配合剤（抗がん剤）の効果を高めます。この薬自体には抗がん効果はありません。
- ・次の目的で処方されます。

ホリナート・テガフル・ウラシル療法：

結腸・直腸癌に対するテガフル・ウラシルの抗腫瘍効果の増強

[ホリナート・テガフル・ウラシル療法]

- ・手術後の薬物療法としての有効性および安全性は確立していません。
- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると、病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- この療法は、重篤な下痢がおこり、致命的な経過をたどることがあります。激しい腹痛、下痢などの症状があらわれた場合には、ただちに中止し、受診してください。
- この療法は、劇症肝炎など重篤な肝障害（食欲不振、体がだるい、皮膚や白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、意識の低下）、重篤な骨髄抑制（発熱、体がだるい、出血しやすい）がおこり、致命的な経過をたどることがあるので、早期発見のため、定期的（少なくとも1クール*に1回以上、特に飲み始めてから2クールは各クールを始める前および当該クールの間に1回以上）に肝機能検査、血液検査が行われます。また、このような症状があらわれた場合には、ただちに中止し、受診してください。
 - *「クール」については使用量および回数の項を参照してください。
- 次の人は、この療法を行うことはできません。
 - ・重篤な骨髄抑制(貧血、白血球減少、血小板減少)がある人
 - ・下痢(水様便)がある人
 - ・重篤な感染症にかかっている人
 - ・過去にユーゼルやテガフル・ウラシル配合剤に含まれる成分で重篤な過敏な反応を経験したことがある人
 - ・テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤(ティーエスワンなど)を使用している人および使用を中止して7日以内の人
 - ・妊婦または妊娠している可能性がある人(この薬と一緒に使用するテガフル・ウラシル配合剤を使用した方のお子さんに奇形が認められたとの報告があります。)
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・骨髄抑制(貧血、白血球減少、血小板減少)がある人
 - ・肝臓に障害がある人、または過去に肝臓に障害があった人
 - ・腎臓に障害がある人
 - ・感染症にかかっている人
 - ・心臓に障害がある人、または過去に心臓に障害があった人
 - ・消化管潰瘍(かいよう)または消化管出血がある人
 - ・耐糖能異常のある人
 - ・水痘(みずぼうそう)にかかっている人
 - ・前に化学療法による治療を受けていた人
 - ・授乳中の人
- この療法には併用してはいけない薬[テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤(ティーエスワンなど)]や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は次のとおりです。

一回量	1錠
飲む回数	1日3回（約8時間ごとに）

- ・通常28日間連続で飲み、その後7日間休みます。これを1クールとして繰り返します。
- ・必ずテガフル・ウラシル配合剤と同時に、食事の前後1時間を避けて飲んでください。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

飲み忘れに気づいた場合には、その薬は飲まずにとぼして、次の決められた時間に次の薬を飲んでください。テガフル・ウラシル配合剤を飲み忘れた場合も同様にしてください。

●多く飲んだ時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、すぐに医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この療法は、重篤な下痢、腸炎などがおこり、致命的な経過をたどることがあります。激しい腹痛、下痢などの症状があらわれた場合には、ただちに中止し、受診してください。
- ・この療法では、劇症肝炎、重篤な骨髄抑制などの副作用がおこり致命的な経過をたどることがあるので、使用中は定期的（少なくとも1クールに1回以上、特に服用開始から2クールは、各クール開始前および当該クール中に1回以上）に肝臓、血液の検査が行われますので受診日を守ってください。
- ・この療法では、体の抵抗力が弱まり、かぜなどの感染症にかかりやすくなることがあります。人ごみを避けたり、外出後は手洗いやうがいなどをしたり、感染症にかからないように気をつけてください。
- ・出血しやすくなることがあります。鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざなどの症状に気をつけてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人はこの薬を使うことができません。（この薬と一緒に使用するテガフル・ウラシル配合剤を使用した方のお子さんに奇形が認められたとの報告があります。）
- ・妊娠する可能性のある女性は、この薬を使用している間および使用を終了してから6ヶ月間は、適切に避妊してください。
- ・男性は、この薬を使用している間および使用を終了してから3ヶ月間は、バリヤ法（コンドーム）を用いて避妊してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの療法を行っていることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください。重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
骨髄抑制 こつぜいよくせい	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸（どうき）、息切れ
溶血性貧血 ようけつせいひんけつ	体がだるい、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
劇症肝炎等の重篤な肝障害 げきしょうかんえんなどのじゅうとくなかんしょうがい	体がだるい、吐き気、食欲不振、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、急な意識の低下、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、意識の低下
肝硬変 かんこうへん	体がだるい、吐き気、食欲不振、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、意識の低下
脱水症状 だっすいしょうじょう	喉が渇く、体重が減る、立ちくらみ、めまい、疲れやすい、体に力が入らない、手足がつる
重篤な腸炎（出血性腸炎、虚血性腸炎、壊死性腸炎等） じゅうとくなちょうえん（しゅっけつせいちょうえん、きょけつせいちょうえん、えしせいちょうえんなど）	発熱、お腹が張る、激しい腹痛、下痢、吐き気、嘔吐、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、血が混ざった下痢、ふらつき、息切れ、急激な腹痛、突然の激しい腹痛、冷汗が出る、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる
白質脳症等を含む精神神経障害 はくしつノウしょうなどをふくむせいしんしんけいしょうがい	歩行時のふらつき、口のもつれ、動作が鈍くなる、意識の低下、幻覚、妄想、興奮、抑うつ
狭心症 きょうしんしょう	しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、冷汗が出る、あごの痛み、左腕の痛み
心筋梗塞 しんきんこうそく	しめ付けられるような胸の痛み、息苦しい、冷汗が出る
不整脈（心室頻拍等を含む） ふせいみやく（しんしつひんぱくなどをふくむ）	めまい、動悸、脈が遅くなる、気を失う、脈がとぶ、胸の不快感
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
ネフローゼ症候群 ネフローゼしょうこうぐん	尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、息苦しい、尿が赤みを帯びる、むくみ、体がだるい、体重が増える


重大な副作用	主な自覚症状
嗅覚脱失 きゅうかくだっしつ	臭いが弱い、もしくは分からない
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
急性膵炎 きゅうせいすいえん	吐き気、嘔吐、激しい上腹部の痛み、背中の痛み、お腹にあざができる、お腹が張る
重篤な口内炎 じゅうとくなくうないえん	口内の粘膜や舌に白い膜ができ、スムーズでなくなる、耐えがたいほどの口内の痛み、物が飲み込みにくい、口内の傷・腫れ、食欲不振
消化管潰瘍 しょうかかんかいよう	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る
消化管出血 しょうかかんしゅっけつ	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、便に血が混じる、黒い便が出る
皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん (スティーブンス-ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
中毒性表皮壊死融解症 (Toxic Epidermal Necrolysis: TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゅうかいしょう (トキシック・エピダーマル・ネクロリシス: テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
ショック ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、寒気、出血が止まりにくい、体がだるい、体がかゆくなる、急激に体重が増える、体重が減る、疲れやすい、体に力が入らない、ふらつき、冷汗が出る、動作が鈍くなる、むくみ、体重が増える、食欲不振
頭部	頭が重い、めまい、意識の低下、立ちくらみ、妄想、興奮、抑うつ、気を失う、意識の消失、急な意識の低下、幻覚
顔面	顔面蒼白、鼻血、あごの痛み、臭いが弱い、もしくは分からない
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ

部位	自覚症状
口や喉	喉の痛み、歯ぐきからの出血、吐き気、血を吐く、喉が渇く、嘔吐、口のもつれ、咳、口内の粘膜や舌に白い膜ができ、スムーズでなくなる、耐えがたいほどの口内の痛み、物が飲み込みにくい、口内の傷・腫れ、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）唇や口内のただれ、喉のかゆみ
胸部	動悸、息切れ、しめ付けられるような胸の痛み、胸を強く押さえつけられた感じ、息苦しい、胸の不快感
腹部	お腹が張る、激しい腹痛、突然の激しい腹痛、激しい上腹部の痛み、腹痛、胃がむかむかする、急激な腹痛
背中	背中での痛み
手・足	手足がつる、手足が冷たくなる、歩行時のふらつき、左腕の痛み、脈が遅くなる、脈がとぶ
皮膚	あおあざができる、皮膚が黄色くなる、お腹にあざができる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、全身のかゆみ、じんま疹
便	便に血が混じる、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）、下痢、血が混ざった下痢、黒い便が出る
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、尿が赤みを帯びる

【この薬の形は？】

PTP シート	
形状	円形の錠剤 
外形	直径：8.0mm 厚み：3.5mm 重量：180mg
色	淡黄白色
識別コード	TC 4 4 7

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ホリナートカルシウム
添加剤	乳糖水和物、部分アルファー化デンプン、結晶セルロース、デンプングリコール酸ナトリウム、ステアリン酸マグネシウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：大鵬薬品工業株式会社

[\(https://www.taiho.co.jp/\)](https://www.taiho.co.jp/)

医薬品情報課

電話番号：0120-80-4527

受付時間：9時～17時

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）